



各種目の上位入賞者(チーム)は、「第53回全国消防救助技術大会」への出場権を獲得します。明石市消防局からは、3種目に15名の隊員が大会に参加しました。

令和7年7月9日(水)、明石市消防局訓練場において、第53回消防救助技術近畿地区指導会の消防局長査閲が行われました。消防局長の査閲後、明石防火協会長から出場する隊員に向けて、激励のお言葉と激励品の贈呈が行われました。第53回消防救助技術近畿地区指導会は、令和7年7月19日に実施されました。大阪府下24消防本部及び兵庫県下24消防本部から選抜された800人を超える隊員が参加しました。

第53回消防救助技術近畿地区指導会に向けての激励

令和7年度 明石市危険物安全講演会開催

全国的に6月第2週を「危険物安全週間」としており、この一環として、明石市では令和7年6月10日(火)にリモート形式で「明石市危険物安全講演会」を開催しました。本講演会は、危険物施設のみならず、地震など避けられない災害への備えとして、市内企業の防災意識を高めることを目的としています。参加事業所数は54事業所、参加者数は160名でした。

講師の日本マネジメント総合研究合同会社 理事長 戸村 智憲氏より、実体験に基づく警鐘や、企業全体での防災対策、個人でできる簡単な取り組みなど、被害を最小限に抑え早期復旧に至るまでの計画について、非常に有意義な情報提供がありました。参加者は、万が一の際の備えについて、幅広い知見を得ることができました。

講師 日本マネジメント総合研究合同会社

理事長 戸村 智憲氏

演題 「備えて安全 お得にかしい防災・リスク対策のポイント」



中小企業庁BCP無料ひな形をおおう & 活用ポイント

無料から100%の精度を求めて作成しにくい60~70%の精度で十分一冊編成で構築可能。必ず入力する項目と対応。印刷可能。印刷後、必ず入力する項目と対応。印刷可能。印刷後、必ず入力する項目と対応。印刷可能。

- 避難場所や代替業務拠点(バックアップ拠点や施設)は、住所や名称だけでなく、地図や現地の写真(建物等の写真)なども入れておく
- 緊急時には避難経路や現地の様子(建物等の写真)なども入れておく
- 他地域・他国からの採用者や人事異動などで土地勘のない方も...
- バージョン管理(いつ作成・いつ改訂)と定期的な見直し改訂が必須
- 緊急連絡先は住所・氏名・携帯電話番号・固定電話番号・メールだけでなく、できればSNS(LINE等)のアカウントも入れておく
- 電話が混みあってつながらない⇒ネットで文字情報はデータ量も少なく通じやすい。最近では携帯・固定とも電話契約無しの方も...
- 防災担当リーダー・サブリーダーを設定するがゆえの副作用に留意
- 「防災関連は担当者の仕事」として他人事となりその担当者が被災して動けない場合、自社の防災対策がスムーズに進まなくなる
- 訓練の際にでも、防災担当者全員が被災・負傷等で動けない想定もして、現有能力でどう対応するかをトレーニングしておくべき

https://www.chus-honmei.go.jp/bcp/

令和7年度 兵庫県危険物安全・安心大会

令和7年6月18日(水)、神戸市産業振興センター ハーバーホールにおいて、「危険物安全・安心大会」(主催:兵庫県、公益財団法人兵庫県危険物安全協会)が開催されました。この大会は、危険物の保安に関する意識の高揚と自主保安体制の確立を推進し、危険物事故災害の防止を目的としています。今年度、明石市内の防火協会の方々が次の通り受賞されました。株式会社ダイセキ関西事業所は、県下優良事業所を代表して、服部兵庫県副知事から表彰状が授与されました。

- 兵庫県知事表彰
- (優良事業所)株式会社ダイセキ 関西事業所
- (優良取扱者) マルニ製油株式会社 坂本 龍彦様
- (優良事業所) パンシユー株式会社
- 公益財団法人兵庫県危険物安全協会代表理事表彰
- (優良取扱者) マルニ製油株式会社 坂本 龍彦様



令和7年度 明石防火協会視察研修

明石防火協会視察研修を令和7年8月29日から30日にかけて両日とも日帰りで実施しました。参加者は延べ43名となり、すべての部会から参加いただくとともに、部会に所属しない会員の方にも参加いただきました。視察研修の訪問先ですが、29日は大阪府舞洲で開催中の「大阪・関西万博」、30日は兵庫県三木市にある兵庫県広域防災センターで開催された「全国消防救助技術大会」です。

「大阪・関西万博」では、防火・防災対策の重要性を再確認し、実践的な対策を学ぶことを目的としました。会場内部を視察したところ、広大な敷地に立ち並ぶ各種施設の建築設計や動線計画、消火設備の配置など、来場者の安全を第一に考えた細やかな配慮が随所に見られました。特に避難経路確保や、多数の物販・飲食店舗への消火器設置など、万が一の事態に備えた万全の対策は、各事業所において即座に実施できるものから、計画的に取り入れていく必要のあるものまで多岐にわたり、貴重な学びの機会となりました。「全国消防救助技術大会」では、全国各地で優秀な成績を収めた救助隊員が一堂に集結し、鍛え上げられた心身とともに磨き抜かれた救助技術が披露されました。参加者は、公助の頼もしさを強く感じることができました。また、同会場内では、阪神・淡路大震災から30年が経過し、その間に培われた自助・共助の取り組みを振り返るとともに、進化した防災資機材の展示や防災教育の要素を取り入れた体験型のイベントが開催されており、参加者の皆様が積極的に体験や意見交換をすることで、「震災を風化させてはいけない」、「災害には備えが重要である」という2つのことについて再認識することができました。2日間にわたった視察研修でしたが、両日ともに猛暑の中、参加者の皆様におかれましては、その暑さに負けない熱意で各種の見学・体験を行っていただきました。

